

(様式1)

平成30年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 自学自習 (2) 規律ある自由 (3) 体力の増進
(2) 現状と課題	「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を目指す人間像とし、徳・智・体の調和がとれ、単なる知識修得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる、リーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指している。年々、受け身の姿勢が強くなっていることから、主体的に学んでいく生徒を育てる体制を整えていく必要がある。また、高い志を掲げ困難に挑戦していくことができる生徒を育み、地域の重点校としての期待に応えていく必要がある。
(3) 重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性と社会性の育成 3 キャリア教育の推進 4 重点校としての任務の遂行
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学年・分掌に関して教員による「自己評価」の結果を掲載する。また、学校関係者評価として「学校評議員会」の議事録及び本報告書を掲載する。

学校整理番号	9
学校名	青森県立弘前高等学校
全日制の課程	

自己評価実施日	平成31年 1月31日 (木)
学校関係者評価実施日	平成31年 2月 4日 (月)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員(5名) (有識者同窓生2名、有識者教育関係2名、元PTA役員1名)

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	確かな学力の育成	授業第一主義を徹底する 「学び」の姿勢と学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る 主体的に学び、深く考える授業を展開し、論理的思考力・応用力を育成する 生徒理解に努め、生徒との信頼関係の醸成を図る	いつまでどのくらいの力を身に付けさせるか教員間で議論し、カリキュラム編成に生かした。授業力向上を目的とした研究授業、互見授業、校外研修に取り組んだ。今後も授業改善に努めていく。	B	大学ではアクティブ・ラーニングは一生懸命なのに、通常の講義では元気がないことが課題であるが、本校の授業では先生と生徒のやりとりがあり対話的であった。総合的学習の時間の「課題研究」は、生徒の主体性を引き出す実践としていい取り組みであることから、評価方法も工夫して生徒の多様な資質や能力を伸ばしてほしい。	授業では「分かりやすい説明」を心がけるとともに、「考えさせる質問」をより重視して授業改善に取り組んでいるという教員の意見も参考にし、新学習指導要領で求められている「主体的、対話的で深い学びの実現」に向け、校内外の研修に積極的参加させ、さらなる指導力向上を図っていく。
2	豊かな人間性と社会性の育成	自主自律の精神を培い、基本的生活習慣を確立させる 知力・体力を養い、困難にも率先して立ち向かう気概を培う 部活動、自治会活動、学校行事、ボランティア活動を通して逞しい心と体を養うとともに、集団への帰属意識と利他主義を醸成する 伝統・文化を尊重する姿勢を育み、異文化への理解を深めさせる 他人の言動を理解し包容する寛容の精神を養うと共に、共生社会を創る思いやり・優しさを育む いじめ防止基本方針に則り、いじめの未然防止や対応に取り組む	弘高ねぶたの制作や運行の経験は、協働することで育まれる情緒豊かな人間性や責任感、地域文化の継承という意義があり、今後も大切にしたい。「規律ある自由」を基盤に、諸活動から他人を思い遣る心を育み、いじめの未然防止にもつなげられた。	A	1年生から3年生までの弘高ねぶたを見ると、技術や完成度の高まりが、そのまま生徒個人や集団としての成長の跡であることが理解できる。また、部活動についてはきちんと土日の休養日を設けないと、生徒にとっても先生方にとっても負担が大きい。いじめは今年度0件とのことだが、引き続き未然防止に努めてほしい。	徳・智・体の調和のとれた人間教育の柱として、弘高ねぶたを核とした学校行事の充実を図っていく。また、いじめ防止については、改訂した「学校いじめ防止基本方針」に基づき、より組織的・計画的な取り組みを継続していくとともに、生徒自治会のいじめ対策の活動とも連携し、生徒自身のいじめ抑止の力を育み、道徳教育の実践の場とする。部活動の在り方については、年間を通じての活動日の上限を設定し対応する。
3	キャリア教育の推進	三年間を見通した一貫性のある進路計画を立案し実践する 「生きる」「働く」「学ぶ」をつなぎ、社会へどのように貢献するか考えさせる 自分の能力、資質を活かせる大学学部の研究を行わせる 自ら進路を決定できる態度を育成し、決めた目標に進達させる	総合的な学習の時間を通して、課題探究や学部学科研究などの実践的な活動に主体的に取り組めるよう配慮した。三年間を見通した進路計画により、更なるキャリア教育推進を目指して改善していく。	B	生徒一人一人とコミュニケーションをとって生徒自身が調べてきた将来像を尊重し、先生と生徒との信頼関係をベースとした指導・アドバイスで社会へ貢献できる人間を育ててほしい。	「総合的な学習の時間」の内容をより充実させ、特別活動や各教科・各活動の内容を関連づけ、人間としての生き方と在り方も考えさせて「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を育成していく。
4	重点校としての任務の遂行	県教育委員会の「施策の柱」等に応じて教育活動及び各種事業を実施する 医師を志す高校生支援事業の充実を図る 国の教育改革に応じて授業改善を図る	教育改革に関する研究・研修を実施した。重点校としての役割を認識し、各種の事業に積極的に取り組み、各校への協力・参加を呼びかけた。	B	重点校として、人口が減少していく郷土や地元に対して、学校教育としてどのようなことができるのか、高校で学んだ知識をどのようにして生かしていけるのかなど地域貢献の方法も考えさせてほしい。	重点校として近隣の学校と連携して、地域全体の生徒の学力向上を図るとともに、教員の資質向上につながる講演や研修も企画し、地域に貢献できる人材の育成にも取り組んでいく。
(11) 総括	大学入試改革や新学習指導要領の導入への準備や対応など学校を取り巻く環境の大きな変化を奇貨とし、目指す人間像「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」と照らし合わせながら、これまでの教育活動の内容や取り組みを見直し、より「主体的、対話的で深い学び」となるよう学校全体として取り組む。また、インクルーシブ教育システムや教育相談の研修も充実させ、教員の資質能力の向上に努めていく。					